

等学校を途中で引き揚げてまいりました。金沢に第四高等学校というのがございまして、ここは京城帝国大学の鳥山喜一という教授が校長をしており、外地からの引き揚げの高等学校、予科、陸軍士官学校、海軍兵学校等々の人達をかなり受け入れてくれたんです。ですから私の四高の友達、同じクラスには建国大学の人もハルピン学院の人もいます。旅順高校も確かいましたかね、そういう人達が入ってきました。戦後の日本の高等教育というのはそういう状態であって、その典型的なものが愛知大学です。愛知大学は大学を作って予科まで作ったわけですから、これはもう日本独特の高等教育を戦後展開されたということになったと思います。

時間も制限されておりますので、とりあえずここで終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

**【司会】** はい、どうもありがとうございました。何かご質問ございますでしょうか。

**【平田】** 今お話を伺いまして、京城帝国大学には予科はあったけども旧制高校が無かったわけですよ。台湾には台北帝国大学の予科と台北高校と、2つあったようなお話を伺いましたが、その時には志願者のほうとしてはどちらへ行くのか。高校へ行けば大学は自由を選べる、予科へ行けばその大学へしか行けないということですか。北大も確かそうだったと思うんですが。

**【園部】** そうです。もともと京城帝大と台北帝大を作った時は、学生をどうやって集めるかということがありますから、京城帝大の場合もまず予科を作って、予科にどんどん来てもらってそれから大学へ行くと、そういうやり方ですね。それで高等学校を何で作らなかったかと言うと、私の父もそうだったのですが、要するに韓国と日本とは地理的に近いですから、高等学校を作らなくてもいい内地の高等学校にみんな来るわけです。台北の場合は、最初高等学校しかなくて、予科は

無かったんです。どうしてかと言うとだいたい船で3日近くかかりますから、高等学校を作っておけばその台北高等学校を卒業したら台北帝大にだいたい来てくれるだろうという期待があったんですね。ところが、台北高等学校を卒業した人のほとんどが内地の大学に来るもんだから、台北帝大に入る人が非常に少なくて、やむを得ずあとで台北帝大の予科を作ったと、そういう実状がございました。

**【平田】** ありがとうございます。

**【司会】** どうもありがとうございました。それでは以上で5人の先生方のお話を終わらせていただきます。予定した時間を少しオーバー気味ではありますが、ほぼ順調に進んでいると思います。そこで今から約15分ほど休憩を取り、16時10分あたりから後半の部へ移らせていただきたいと思います。なおトイレは後ろのほうにございますし、1階ではいろいろ展示物等を販売しております。その辺りでご休憩いただければありがたいと思います。一応前半の部はこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

時間がちょっと過ぎてしまって申し訳ありませんけど、後半の部へ入らせていただきます。後半はぜひ会場フロアの方々からのご意見等も、いろいろ出していただければ大変ありがたいと思います。その前に今度の企画を中心的に進めていただいた愛知大学同窓会東京支部長の高井先生のほうから、今回の企画に到った背景を含めて、5人の発表者の方々のご発表を聞いた上でのコメントをお願いできればというふうに思います。さっそくお願いします。

**【高井】** 高井和伸でございます。今日に到った経緯についてはあとで言うことにして、忘れないでおきたいことを先に言いたいと思います。園部先生は財団法人台湾協会の会長をなさっておられます。李登輝さんは台湾高校の先輩であって、そう

いった面で今日は台湾派のチャンピオンということで参加していただきますし、最高裁判事という地位は、実は本間喜一先生は最高裁の初代事務総長であります。事務総長の上には最高裁判事が15人いるんです。本間先生の悔しかったことは、最高裁判事になれなかったのか、ならなかったのか、分かりませんが、そういう地位では抜群の差があるということが、歴史的な面では客観的なところなんです。本間先生を思う度に私は涙するという気分がたえずあります。それから佐藤達也先輩がおっしゃってた建国大学、実は愛大と深い関係がありまして、建国大学の新生が長春（当時の新京）に赴任する時に集まった場所はここです。第3期以降は第二予備士官学校の、この大学の前の旧の施設に集まって、それからたとえば伊勢神宮に参って、それで新京に到る。そういう歴史的なスタートの地だということを言い漏らしておられました。ぜひ紹介しておきたいと思います。それから奥田先輩の、前田耕造先生と京城で会って以後初めてここでばったり再会し、抱き合っただけで感激したと言いますが、私は前田耕造ゼミの生徒でありまして、今日の功あるのもみんな前田先生が「本間先生、本間先生」「司法試験を受けろ」と言われて受けてから、今日の自分があるというようなこともありまして、私は深く前田耕造先生の弟子であるということを皆さん方に公言して、今日のこういう会があるのも京城経専（私は経専と言っております）出身の前田耕造先生のおかげであります。それから小崎先輩が、一番長老で88歳。それから一番若いのは園部逸夫先生で81歳。あとのお三方は谷藤助先輩84歳、奥田廣實先輩84歳、佐藤達也先輩84歳ということです。

それで今日のような話は、今まで大学史、あるいは同文書院記念センターのいろんな書で、いろんな面でたくさん残っていますけれども、私共これからどうしてこういう会になったかと申し上げますと、谷藤助東京支部長時代、私は事務局長でございまして、その時に本間先生が90何歳で、

一高の出身でありまして寮歌が大好きだった方ですが、愛大予科からは本科まで6年あった、その愛大は旧制高校と同格であるし寮歌もあると。日本寮歌祭というのをやってるけど入れと。こういう命令が下りました。ところが旧制高校の連中は守旧派でありまして、なかなか入れてくれないんですよ。それで谷藤助支部長以下ものすごく頑張りました。愛大というのは旧制大学予科でスタートしたんだと言っても、そんな馬の骨、どこの学校だか分からん、知らんと。この点は戦前の旧制高校の連中からすれば全然分からない話で、そういう悪戦苦闘する時に東亜同文書院大学の先輩の話をしたり、それから今日のような話でいろいろ友達付き合いがあるということから、愛大というのは俺の同級生が入ってるぞとか、旧制高校の流れの中でたとえば鳥取中学の同級生が東亜同文書院に行って、その後は愛大に入ったとか、そういう話が出てきてああのこのやってくうちに、だんだん今日園部先生にお言葉をいただいたような、戦後できた予科3年、本科3年、合計6年の、旧の体制で新の制度ができたというこの珍しい大学の存在を、非常にわかりやすい言葉でパチッとした格好で言われました。

当時はさっぱり愛大の地位は低くて低くて、何ともしようがなかったんですが、私はその時弁護士に駆け出しでまだちょっと暇があったもんですから、一生懸命働きました。その時に谷藤助支部長が表舞台に出演していただいて、私は下のほうでちょこちょこいろいろやっていたんですが、その中で出てきたことは、やっぱり愛大の歴史を知っていただければみんなが理解してくれるようになるということで、各論的な細かいことがちっとも分かっておられない方々にこっち側からアピールしなきゃいけない、ということになりました。愛大予科が寮歌祭に出るようになったのは昭和62年、天皇陛下が亡くなる1年前でございまして、その前に千葉の寮歌祭に出るというので千葉の寮歌祭に出て、浜田学長にも来ていただいて、

予科帽を被って旗を振ってもらいました。学長まで来て一生懸命やっける誠意を認められまして、以後学長が全部出てきてくださいました。

そういった中でようやく参加するようになった時に、私は愛知大学予科、というような顔をして常任委員会の委員になりまして、先ほどの園部先生のお父さんの敏先生が出られた第五高等学校の同窓会が神宮外苑の前のパシコンビルというところにありまして、そこへ行きまして会合に出ました。そこに到るまでに「愛知大学予科にどんな寮歌があるんだ、歌ってみろ」という時に、われわれが「ウォーッ」と言っただけです。その時の意気が、やっぱり旧制高校の連中とやり合う時の雰囲気が出るんですよ。「どこの馬の骨か分からんやつだ」なんて言っただけで「ウォーッ」ってやるわけですよ。「お前が知らんのか」なんてことは言いません。そういう方々に散々いじめられてきましたけど、とうとう愛知大学の連中がしっかりやってきてきちっと歌うし、根性が座ってるし、みんな先輩達は苦労して帰ってきてるし、そういうことで愛大は上位にきました。山形高校の神津さんという方が今寮歌祭の委員長をやっていますが、その人達にも覚えがめでたくなりまして、いろんな面であつなかりが出てきてまして、そして最後には日本寮歌振興会の面々を、愛知大学が霞が関コモンゲート37階に東京事務所をセットした時に披露するというご呼びをしまして、そこで懇親会を開きました。場所もいいし、今まで寮歌祭で一生懸命働いていたというところも認められました。認められたという言い方をすると悔しいんですが、その精神がよく分かってる連中だということになりました。

それで豊橋で平成8年に予科50年を記念して、日本寮歌祭的な「豊橋寮歌の集い」を行いました。この時は全国から500人か600人集まりまして、百何十人の方に宿泊していただき、蒲郡のホテルがとても良かったということで大評判をとりました。それ以後安定した関係になりました。そうし

た中で特に京城帝大予科（今日も言葉の中に「城大」と出たのは「京城帝国大学予科」のことです）の方々と、やっぱり今日のルーツ校的な発想で、こういった方々と懇親会をまた開くことになりました。さらに城大の次もどこかやるところがあるなということで、建国大学、佐藤先輩のところともやりました。その次は園部先生のところの台北高校と台北帝大予科との懇親会も、37階のいいレストランですがささやかながら安い会費でやっております。場所だけがいいというところで会合致しまして、親交を重ねて今日のような会合に到達したということでもあります。

そうした中でわれわれはどんな活動をしたかということは、実は先週できあがりました『愛知大学同窓会東京支部50年史』というやつに写真集8頁のところ30頁になって、写真を見るだけでもよく分かるのですが、京都において今日はそちらの奥田先輩と園部先生を除いた3名の方が京都でご講演なさいました。やっぱり東亜同文書院大学記念センターの愛大、その前の同文書院、同文書院から愛大という展示会等々の横浜スタートでやった会合ですが、横浜のスタートの時もどちらかと言うと建国大学っぽいテーマがありまして、そこでもかなりやいやいややって、講師の方と一杯席をみんなで同じゅうして、50人以上集まったと思いますが、その時の勢いが「愛大は豊橋にあつて面白い学校」だというようなことを、講師の方々が言っておられました。

まあそんな中でわれわれが思うことは、やっぱり愛大の歴史を定着させておかないと痛切に思うようになりまして、東京のほうでは「語り部の会」というので、こういった今日のような方々2時間か3時間かけて語ってもらおうという会をスタートして今のところ2人こなしております。そういったことを佐藤学長にもお願いしまして、この続き的なところで定着させて、それぞれに苦労なされた体験を、愛大の将来につなげ、日本の将来につなげ、さらにアジアへの発展につなげるような方



向でまとめていきたいと。

そういう中で2012年の笹島キャンパスの話が出まして、その笹島キャンパスの話をやるには、今アジアへの情報発信ということが名古屋市から土地を借りる時のコンペのテーマであって、それをやれるのは愛知大学だと、こうのたまったわけですから、それは当然今まで言った通りの愛大の今日のテーブルにあるような皆さん方の体験があればこそ、その財産があればこそ、採択されたんだろうと私は思います。甲斐一政さんなどは愛知県庁などにおかれまして、そういった面での1つのチャンピオン。それで名古屋市役所にもたくさんの愛大の同窓会があると。そういった流れでできてる以上は、やはり情報発信する資格が愛知大学にあるんだということを、もうちょっとがっちりやるべしという感じがありまして、私達はジャンジャン頭の中が興奮してきまして、こういう会合になったと。私がやったような言葉になってますが、これは愛知大学同窓会がやったのであり、もう少し細かく言えば関東の東京支部と神奈川支部と千葉支部と埼玉支部がみんなと一緒にやってやったということでございます。私共はこれからできれば、愛知大学がアジアに向かって情報発信する資格のある大学だということを、この会合を通じて発信したいし、定着させたいし、後輩にも伝えたいし、先輩方にもさらに語っていただきたいということで、今日の会合の後押しをさせていただきました。もちろん東亜同文書院大学記念センターがこれまで営々となさってきたことの後押しのものでございます。ありがとうございました。

それで『愛知大学支部50年史』、みんなで作りましたがタダではありません。いい本になっておりまして、2,000円でございます。東亜同文書院との関係、引き揚げ学徒との関係、寮歌祭の関係、京城帝大の関係、三先覚（東亜同文書院の荒尾精、根津一、それに近衛篤麿）の関係、そういったことがコンパクトにまとまっておりますし、愛知大学東京支部が寮歌祭でどうやって苦労して参加す

るようになったかということも詳しく書いてありますし、それから皆さん方に知っておいていただきたい愛大の東京支部、あるいは関東4支部がいろいろ苦労してやっておりますよというメッセージと、もう1ついえば、身分不相应にも見える霞が関コモンゲート37階の愛知大学東京事務所を根城に、もっとこれからも頑張っていこうじゃありませんかというメッセージがこの本に込められております。金2,000円でございます、どうぞお買い上げのほどお願い申し上げます。以上です。

**【司会】** はい。どうもありがとうございました。高井さんのほうから熱き思いをいろいろと語っていただきました。まあ今の2,000円のお話もございましたけど、東京へお出かけの節は愛大の卒業生でなくても、コモンゲート37階の東京事務所へぜひお寄りいただいたら、皇居はほんとに上から丸見えですし、総理大臣官邸とか国会議事堂も全部見えてしまうんですね。銀座・新宿・渋谷、それから富士山まで、丸見えの世界です。ぜひ1度お寄りいただいて、愛知大学の東京事務所の雰囲気味わっていただけたらというふうに私からもお勧めしたいと思います。東京へ行くチャンスがありましたらぜひお寄りください。高井さんのほうから前向きな形でコメントをいただきましたけれども、5人の方々、それに今の高井さんのお話を含めて6人の方々に、まあ時間の関係であまり細かい分野別にお話を進めていくというわけにもいきませんので、包括的に、どういうことでもよろしいですのご質問とかご意見がありましたら。はい、じゃあさっそくお願いいたします。

**【平田】** 今高井先生から寮歌のお話を伺って非常に感激しました。その前に園部先生から、たぶん愛知大学の予科というのは、予科と旧制高校と一括りに考えると戦後初であり、場合によっては最後かも知れない。それから先ほどお話がありましたように、旅順高校というのは確か最後の日本の旧制高校だと思います。私も寮歌が好きでいろい